

## 今もやまぬ暴言、妄言

総選挙も最終盤に。自民党の麻生太郎副総裁が25日に北海道で行った衆院選の街頭演説で、北海道産米が地球温暖化の影響で品質が上がったかのような発言をして、岸田文雄首相(自民党総裁)が陳謝するなど影響が広がっている。(写真も、mainichi.jp 10月28日)



いつもの麻生暴言だから、「あーそー」と見過ごすことはできない。ここでは同紙27日夕刊「特集ワイド」青木理「理の眼」を紹介しておく。

この為政者が暴言や妄言の類いを吐くのは毎度のこと。だからといって聞き流したり、うんざりして批判や追及をあきらめたりするわけにはいかないのです。それは発言内容の容認につながりかねず、まして彼はつい先日まで9年近くも財務相と副総理を兼務し、新政権でも与党副総裁として政権運営に大きな影響力を持つ政権与党中枢の権力者。ここは正面から批判を加えておくべきでしょう。

ただし、一部を切り取られたとか、だから誤解を招いたとか、そういった弁明を許さぬよう、紙幅の許す限り正確に発言を引用します。その彼一すなわち麻生太郎氏は25日、北海道の小樽市で与党候補の応援演説に立ち、次のような発言を口にしました。

「地球温暖化っていうと悪い話しか書いてありませんが、いいこともあります」

「いま北海道は、いろんな意味で暖かくなった。平均気温が2度上がったおかげで、北海道のお米はおいしくなった。むかし北海道のお米は厄介道米っていうくらい売れない米だった。いまはその北海道が、やたらうまい米をつくるようになった。農家のおかげですか。農協の力ですか。違います。温度が上がったからです」

「温暖化だっていうと悪い話じゃなく、良い方に向くものも、農産物に限らず、いろんなものが良くなりつつあるんじゃないの？」

いったいどの部分から批判すればいいのか、ひょっとしてすべて冗談のつもりか、それにしても常軌を逸していて、演説している彼の顔を眺めれば、いつものようにゆがんだ笑みもなく、本気で言っているように見えるのです。

とすれば、正気を疑うしかありません。世界でも日本でも自然災害が続発するなか、気候変動は人類の活動が原因だと国連の政府間パネルが初めて断定し、「人類への赤信号」だと警告を発した今年。その変動メカニズムを解明した学者にノーベル賞が贈られることが決まった今年。しかも農産物の品質改良や技術開発に苦勞してきた人びとを侮辱するような暴言。

そういえば先般、日本と同じく総選挙が実施されたドイツでは気候変動問題が大きな争点となり、環境保護を訴える政党が躍進を遂げました。対する僕たちの国では、「温暖化にもいいことが」などと言い放つ為政者がまたも高笑いする結果になるのでしょうか。(2021年10月29日)